

どうやら私は別世界に来たようだ。

その日 私はギルドの依頼で薬草取りに来ていた。

水辺の近くで咲くキレイな花を摘んで
持ち帰ろうと立ち上がろうとしたところ
変な穴がある事に気がついた。

「なにこれ…」

穴に近づいて確認してみると

穴の中から出てきた何か腕を掴まれた。

「ちよつなっ！！」

触手のような：

いや触手が強引に腕を引っ張り

穴の中に引きずり込もうとしてくる。

「はっはなしてっ！」

力任せに引き抜こうとするが抜けない。

そのままズルズルと穴の中に

体が吸い込まれていく。

「な…にこれ…」

完全に穴の中に入ると目の前には見たこともない
大きな触手がうねうねと体をくねらせていた。

正確には触手はこちらの世界でも

見たことはあるけれど

こんなに大きな触手は見たことない。

「…っ」

早く元の場所に戻らないと
後ろを振り返り
穴のあった場所を確認するが
何故かなくなっていた。

「なっなんで??」

驚いてキョロキョロと辺りを見回すが
どこにも先ほどの穴が見当たらない。

「やっやだ……どうしよう……」

戸惑っていると体が宙に浮いた。

「へっ？ なっなにっ！？」

触手に体を掴まれている様だ。

そのまま触手は服の中に侵入してくる。

「やっやだっ」

逃げようともがくが

強い力で押し込められ身動きが取れず

そのまま服を全て脱がされてしまった。

（こ…こんな外で全裸にされるなんて

っ）

あまりの恥ずかしさに体を縮こませていると
触手が胸のあたりを触り始めた。

「やっ」

始めはやわやわと感触を確かめるように揉み出し
そして数分経過すると突起に触れ始めた。

「……………」

こんな場所 別にどうってことない。

せいぜいくすぐったいだけの

はずなのに何故か体が疼いてきた。

「あっやだ：うそっ」

ムクムクと乳首が勃起し

ぷっくりと腫れてしまった。

そしてそれと同時に下半身のあるところも

じつとりと濡れて下着にシミを作り始めていた。

「なっなんで」

（そういえば液体を塗られてるような
もしかしてこれのせい？）

テラテラと光に反射する液体は触手の体液だ。

薄いピンク色をしていて
それが付着している場所が
ゾクゾクと過敏に反応してしまう。

（これはまずいっ）

直感的にこのままでは不味い

そう感じて逃げようするが
その前に触手が胸の突起を摘み始めた。

「ひあっ」

乳首を摘まれてるだけなのに
身体中を刺激する快感が押し寄せてきた。

そのままコリコリと乳首と

胸全体を触手に包まれ揉まれ弄ばれてしまう。

「はあっんっ」

あまりの刺激にいきそうになってしまったが

まだ少し残っていたプライドのおかげで
何とか堪える事に成功した。

「はあッはあッ」

息をついて快楽から意識を逸らそうと
していると妙に先端が膨らんだ触手が
胸元にやってきた。

「？」

なんだこれはと思った瞬間

膨らんだ触手が一斉にばらばらに広がった。

「ひっ」

その触手の中には無数の小さな

触手がうぞめいていて視界に入れたくない

ぐらいグロテスクな見た目をしていた。

「やっまさかそれッ」

（乳首に当てるわけじゃないわよね）

考えていたことが当たっていたのか

期待するように膨れ上がった乳首に
それは徐々に近づいてくる。

「いっいやあああ」

嫌がりながら体を暴れさせるが
抑え込まれそのまま
片方の胸全体が飲み込まれる。

「ひいっいいいい」

勝手に足がピンと仰け反ってしまおうほど強い刺激に見舞われた。

秘部が胸の刺激により連動してるかの様に熱くなる。

「いっいやああああ！！」
乳首を小さな触手につつかれ愛撫される。

そして優しく撫でていたと思えば無数に刺激していた触手が一気に力を込めてドリルの用な回転を乳首に加え刺激した。